

農業技術 プリズム

近年の茶業情勢は、リーフ茶の消費減少などの影響を受けて茶価が低迷するなど、極めて厳しい状況にあります。また国内・海外販売を行う上で「安全・安心」な製品供給と低コスト化が強く求められています。

2013年に鹿児島県と松元機工によって共同開発された茶乗用型少量農薬散布機は、微細な霧状散布と送風によって薬剤散布量を削減しながら茶園表面部の病害虫を排除する機械です。当研究室では、本散布機を用いて農薬散布量を削減した場合の病害虫被害、その防除体系を継続的に実施した場合の生葉収量・荒茶品質に与える影響を調査しました。

量防除（秋芽開葉期10ヶ当たり100g）¹⁾、秋芽3葉期防除同120g²⁾で慣行手散布防除（秋芽開葉期、3葉期とも同200g）と同等の防除効果があり、二番茶生育期における試験でも同様の結果でした。

茶農薬費の節減へ

乗用型少量散布機 収量・品質影響なし

さらに乗用少量防除体系で15年秋芽生育期から2年間継続して栽培管理を行ったところ、生葉収量と荒茶品質は、慣行手散布防除体系と同等でした。

このように、茶乗用型少量農薬散布機の使用により、農家慣

行の散布方法と同等の防除効果があり、収量・品質に与える影響はなかったことから、散布量削減による農薬費の節減が可能です。

注意点としては、微細な霧状散布を行うため成葉裏や茶樹内部へ付着しにくい散布法です。

秋芽生育期の防除効果（2017）および乗用少量散布の生葉収量・荒茶品質への影響

区	農薬散布量 (g/10a)		病薬数 (枚/㎡)						生葉収量 (kg/10a)		荒茶品質	
	秋芽開葉期	秋芽3葉期	チャノミドリ	チャノキイロ	マダラカサ	チャノコカク	炭そ病発	病薬数	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
乗用少量	100	120	1.7	21.1	10.0	0.0	6.5	496	n.s. 177	n.s. 66.0	51.5	
慣行手散布	200	200	1.6	15.3	8.2	0.0	4.9	522	232	66.5	52.5	
無散布	-	-	2.6	24.9	23.9	0.3	34.7	349	* 75	66.0	47.0	
発生程度			少	少	—	少	少					

1) 秋芽開葉期にエクシレルSE(2,000倍)＋ベフドール水和剤(500倍)、秋芽3葉期にカステード乳剤(4,000倍)＋オンリーワンフロアフル(2,000倍)、チャノコカクモンハマキ防除にティアナSC(5,000倍)を散布した。

2) 荒茶品質は、標準審査法による官能審査及び慣行手散布と比較して4本の危険率で有意差あり、n.s.=有意差無し (Dunnett法)。

清宗

員 寺井

主任 研究室

樹・茶研

ンター果

術開発セ

県農林技

（長崎

さい。

法で防除

は、慣行

の散布方

を排除す

るときの

ナジラミ

ヤトゲコ

ムシ、チ

カイガラ

クワシロ

ハダニ、

カンザワ

部へ付着しにくい散布法です。